

「創造的復興」の理念を活かしたウクライナ支援検討会第1回議事概要

- 1 開催日時 令和5年4月21日（金）14:00～16:00
- 2 開催場所 兵庫県公館 第1会議室
- 3 出席者 知事 斎藤元彦
座長 岡部芳彦（神戸学院大教授）
委員 河田慈人（県立大特任助教） 越山健治（関西大教授）
諏訪清二（県立大客員教授）
花村カテリーナ（関西看護医療大助教）
木村出（JICA関西所長） 早金孝（県国際交流協会理事長）
河田恵昭（人と防災未来センター長）
ゲストスピーカー
セルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ大使
（アンドレイ・スタヴニツァー氏（大使同行者）を含む）
五百旗頭真(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長
オブザーバー
ナディヤ・ゴラル（神戸学院大客員教授）

- 4 知事挨拶
- ウクライナの日も早い平和の実現を心から強く祈念。
 - これまでのウクライナからの避難者支援に加え、新たな支援をスタートさせたい。
 - 「創造的復興」の理念に基づき、具体的な支援策を検討していきたい。
 - ハード面ではまちづくりのノウハウ、ソフト面ではこころのケアなどを今後議論し具体化していきたい。

5 講演 1 ウクライナ情勢

【コルスンスキー大使】

- ウクライナの被害状況
- 復興計画づくりにおける協力、経験の共有、共同作業のための環境整備
- 支援案件の一例：リハビリのための医療センターへの協力
- カウンターパート候補自治体としてのイヴァーノフランキーウシク州とミコライウ州

【スタヴニツァー氏】

- 形成手術を行うウクライナ人医師への教育訓練への協力を期待



6 講演 2 創造的復興とウクライナ協力

【五百旗頭理事長】

○「創造的復興」

災害の前からビジョンやプランを持つことが重要

Build Back Better（復旧を超えたより良いものへの復興）

○日本のウクライナ支援

戦争遂行支援よりも民復興政支援

○今後、何を？

大規模支援は国、兵庫県としては小さくともニーズを踏まえた心の琴線に触れる支援を



7 議 事

(1) 座長の選定

岡部芳彦委員を事務局が座長に推薦、全員賛同

(2) 検討会の概要・スケジュール

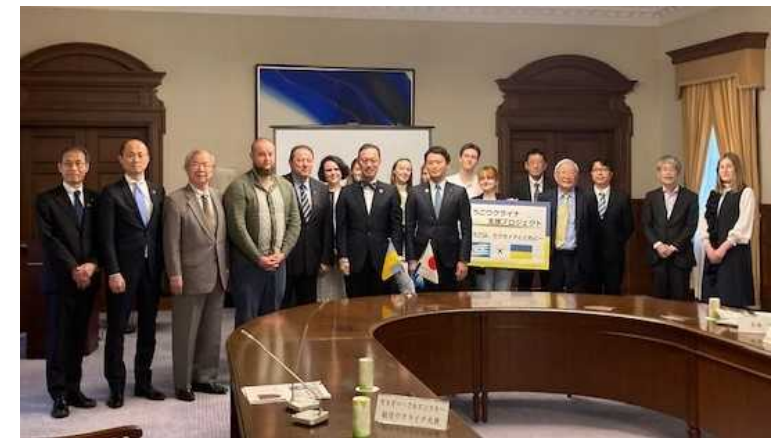
資料1に基づき事務局から説明

(3) 提言（骨子）案のイメージ、カウンターパート自治体の候補・検討

資料1に基づき事務局から説明

(4) 意見交換・質疑応答

次葉のとおり



知事、検討会委員、ゲストスピーカー、オブザーバー、ウクライナ人留学生

【委員・ゲストスピーカーの主な意見等】

項目	主な意見等
提言策定の視点	<ul style="list-style-type: none">◆ 支援は現地ニーズに即すること、持続・実行可能であること、現地と一緒にやることが重要◆ 社会インフラの復興だけでは不十分、被災者の生活再建・社会復帰が重要◆ 総花的になることなく、兵庫県のできることに絞るべき◆ 他の自治体と連携してウクライナへの支援に取り組むのもよい◆ 民間の力を活用した支援を◆ 短期・中期・長期等、時間軸を取り入れた提言としてはどうか
こころのケア等	<ul style="list-style-type: none">◆ 傷ついた子どもたちが立ち上がるためには、新たな価値を見出すこと、象徴的文化事業などを通じたイマジネーション、世界から支えられているという広い意味でのコミュニティが大事◆ 被災地ではこころのケアと防災教育は車の両輪として一体的に進める必要がある◆ 兵庫県が取り組んできた子ども用義手義足のノウハウ等を伝えることも可能
学校教育 防災教育	<ul style="list-style-type: none">◆ 学校でウクライナ情勢を学び、寄り添いの気持ちで防災教育を進めては◆ 専門家の知見を現地の学校の先生に伝え、子どもに広げてもらう◆ 失敗も含めた経験を伝え、現地で教材を作れるような支援をすべき
ウクライナ情報	<ul style="list-style-type: none">◆ イヴァーノフランキーウシク州など国内西部へは避難者が急増しており、支援が必要。一方、避難者の大半は、戦闘終了後、インフラ等が整備されたら元の居住地域に戻るのではないかと。◆ ミコライウ州は損壊が大きく支援が必要
情報発信	<ul style="list-style-type: none">◆ 議事概要は日本語に加えて、英語・ウクライナ語でも公表してはどうか